

令和7年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- 「誠実明朗」「自主創造」「友情協力」の校訓のもと、明るく健康で、自らを高め、他人を尊重する人間性豊かな人格の形成をめざす。生徒と教職員の信頼関係をもとにした専門教育を通じて、勤労と責任を重んじ、幅広い技術を備えた社会人を育成する。
- 基礎学力と専門的な技能・技術を修得し、社会の中で主体的に生きる力を育てる。
 - 協調性、規範意識を身につけ、周囲から求められる社会人を育てる。
 - 地域社会の中での存在意識を高め、生徒が誇りをもてる学校づくりを進める。

2 中期的目標

- 社会の中で主体的に生きる力を育てる
 - (1) 確かな学力の定着と学びの深化
 - ア 新たにICT活用等による「個別最適な学び」と「協働的な学び」をベースとした授業を推進し、誰一人も取り残さず「主体的・対話的な深い学び」の土台を育成する。
 - イ 「主体的・対話的な深い学び」を実現する授業を推進し、学習指導要領に基づく三つの資質・能力を育成するとともに、確かな学力を身につけさせる。※生徒向け学校教育自己診断における「授業に関する満足度」の令和9年度肯定率90%以上をめざす。(R4年度84.8%、R5年度81.0%、R6年度80.9%)
 - (2) 資格取得に対する意欲を高め、主体的に自己の将来を切り拓く能力を育成
 - ア 各種の資格取得を勧め、学習意欲の喚起と有用な技能修得を図る。※令和9年度も卒業生の資格取得率100%（一人一つ以上）を維持する。(R4年度100%、R5年度100%、R6年度100%)
 - (3) 在学中の就労を促進するとともに、生徒の希望する進路実現の支援体制の充実
 - ア 未就労生徒に対して、個別指導と個別支援による就労促進を行う。
 - イ キャリア教育、職業教育を充実させ、社会で自立できる力を育成する。
 - ウ 自己の個性や適性を理解し、主体的に進路を選択する能力や態度を育成する。※学校斡旋就職を支援し、令和9年度も就職希望者の正規雇用就職率90%以上、就職内定率100%をめざす。
(就職希望者の正規雇用就職率 R4年度100%、R5年度100%、R6年度100% / 就職内定率 R4年度100%、R5年度100%、R6年度100%)
- 2 周囲から尊敬される社会人を育てる
 - (1) 授業規律の確立
 - ア 組織的な指導体制により、良好な学習環境と授業規律の確立を図る。※生徒向け学校教育自己診断における「良好な学習環境」の令和9年度肯定率80%以上を維持する。(R4年度84.3%、R5年度85.9%、R6年度88.6%)
 - (2) 協調性や社会性の育成
 - ア 魅力ある学校行事、部活動を振興し、学校生活の魅力を高め、集団活動への参加促進を図る。
 - イ SNS等インターネット上や学校生活及び感染症等に起因する偏見や差別を許さない人権を尊重する教育を推進する。※令和9年度、1年次生の進級率75%以上をめざす。(R4年度71%、R5年度53%、R6年度67%)
- 3 誇りをもてる学校づくり
 - (1) 地域連携を進め、学校への高い評価を獲得
 - ア 地域活動・公開講座の実施など、地域から見える特色ある学校の取組みを推進する。※生徒向け学校教育自己診断における「授業や部活動などで保護者や地域の人々とかかわる機会がある」の令和9年度肯定率70%を維持する。
(R4年度77.3%、R5年度67.8%、R6年度85.2%)
 - (2) 広報活動により、学校の取組みを広く伝える
 - ア 学校ホームページの充実、地域への広報を積極的に展開する。※令和9年度、中高連絡会・学校見学会等の参加者について、年間延べ80名以上を維持する。(R4年度51名、R5年度54名、R6年度104名)
 - (3) 人材育成により、優れた教育の提供
 - ア 生徒のニーズに合致した、特色ある教育課程と優れた指導体制づくりの構築。※生徒向け学校教育自己診断における「本校の特色ある取組み」の令和9年度肯定率85%以上を維持する。(R4年度90.3%、R5年度71.9%、R6年度88.9%)
- 4 働き方改革への取組み
 - (1) 分掌・委員会等の会議の目的を明確化し効率を図る
 - ア 会議資料のデータ化、ICT活用による効率的な運営を図る。
 - (2) 定時退庁の促進、学校閉校日の活用ならびに有効な休暇取得の促進
 - ア 教職員の業務分担の平準化を図り、健康増進・ストレス軽減により、働きやすい職場環境を実現する。
 - イ 各種ハラスメント防止に対する意識の啓発を図る。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和8年1月実施分〕	学校運営協議会からの意見
<生徒分> 51項目中2項目のみ肯定率が減少となり、昨年度より全体的に向上したと言える。51項目中34項目で肯定的意見が90%以上の評価となった。教職員が少人数の生徒に対して工夫してきたことへの評価と捉えたい。次年度以降、維持すべきところは維持したうえで、さらに生徒を伸ばせるようにしたい。 <保護者分> 46項目中18項目で肯定的意見が90%以上の評価であったが、昨年度に比べ、項目によって肯定的意見の増減が大きく見られた。特に昨年度と同じように活動を行った他校との交流や部活動に関する項目が肯定的意見の大幅な減少となった。このことから保護者への情報提供を改善し、本校の教育活動を知っていただく機会を増やす必要があると言えよう。 <教員分> 84項目中13項目で、肯定的意見が昨年度より20ポイント以上の増加となった。しかし、本校の教育活動で力を入れていなかった項目については、肯定的意見が非常に低くなっていた。また、教員間の情報共有に関して肯定的意見が減少していた。このことから次年度は今年度より情報共有の機会を増やしていく必要があると考えられる。	【第1回】6月13日実施 （1）令和7年度の学校経営計画・学校評価について（2）各分掌からの報告（3）質疑・意見交換・本校の特色や魅力を知ってもらう必要がある。ホームページや中学校への情報発信で、「この学校で何が学べるか」具体的にイメージできるようにしてほしい。 ・定時制における教員確保は困難であるが、外部講師など現場の声を届ける工夫をしてほしい。 ・生徒の資格取得のためには基礎学力の向上が不可欠である。対策を講じて向上につなげてほしい。 以上のようなご意見をいただいた。 【第2回】11月29日実施 （1）生活指導部中期報告（2）令和8年度使用教科書（選定・採択）について（3）進路指導部中期発表（4）保健指導部中期発表（5）前期授業アンケートについて（6）いじめアンケート中間報告（7）学校教育自己診断について それぞれの議案で質疑応答があった。特に学校教育自己診断については、質問の精選が必要ではないか、とご意見をいただいた。次年度は学校教育自己診断の質問数を精選することによって、回答率の向上に取り組むことにした。 【第3回】2月4日実施予定 （1）令和7年度 教務部 総括（2）令和7年度 生活指導部 今年度の報告（3）令和7年度 進路指導部 今年度の取組みについて（4）令和7年度 保健指導部 今年度の取組みについて（5）令和7年度 後期 授業アンケートについて（6）令和7年度 いじめアンケート 最終報告（7）令和7年度 学校教育自己診断結果について（8）令和7年度 学校運営計画評価について（9）令和8年度学校経営計画について 以下のようなご意見をいただいた。 ・スマートフォンとの付き合い方を考える必要がある。 ・学校教育自己診断で否定的な回答をした生徒へのフォローをできるならしたほうがよい。 ・定時制高校という都合上地域連携の機会を設けることは非常に難しい。地域連携の方法についてはじっくり考えていく必要がある。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標〔R6年度値〕	自己評価
1 社会の中で主体的に生きる力を育てる	(1) 確かな学力の定着と学びの深化 ア 新たに ICT 活用等による「個別最適な学び」と「協働的な学び」をベースとした授業を推進し、誰一人も取り残さず「主体的・対話的な深い学び」の土台を育成する。	(1) ア・1人1台端末利用するなど「個別最適な学び」で指導の個別化と「学習の個性化」をし、探究的な活動や体験・実習の中で他者と協働する「協働的な学び」の2つの学びの両立をベースにできるように授業改善を行う。 ・生徒1人1人の学習意欲を喚起するよう、「わかる授業・できる授業」をめざす。	(1) ア・1人1台端末やデジタル学習教材等を利用した「個別最適な学び」のある授業と、「協働的な学び」のある授業を、一般科目と工業系科目それぞれ学期に1回ずつ以上(年間2回ずつ以上)校内公開をし、授業改善を推進。[個別最適な学びのある公開授業を年10回] (授業アンケート)「あなたは、授業を受けて、知識や技能が身に付いたと感じている。」肯定率80%以上を維持。[81.2%] (生徒向け学校教育自己診断)「学校は1人1台端末を効果的に活用している。」肯定率80%以上を維持。[81.5%]	(1) ア・1人1台端末やデジタル学習教材等を利用した「個別最適な学び」のある公開授業を、年10回実施。【○】 (授業アンケート)「あなたは、授業を受けて、知識や技能が身に付いたと感じている。」肯定率86.0%(第1回85.2%、第2回86.7%) 【◎】 (生徒向け学校教育自己診断)「学校は1人1台端末を効果的に活用している。」肯定率96.9%【◎】 ・(生徒向け学校教育自己診断)「授業が楽しくわかりやすい。」肯定率87.5%【◎】
	イ 「主体的・対話的な深い学び」を実現する授業を推進し、学習指導要領に基づく三つの資質・能力を育成するとともに、確かな学力を身につけさせる。	イ・「主体的・対話的な深い学び」を実現する授業ができるように授業改善を行う。	イ・ICTを活用した「主体的・対話的な深い学びのある授業」を、校内で学期に1回(年間2回)以上公開し、校外にも1回以上公開し、授業改善を推進。[校内7回、校外1回] (生徒向け学校教育自己診断)「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある。」肯定率60%以上をめざす。[55.6%] (教員向け学校教育自己診断)「思考力を重視した問題解決的な学習指導を行っている」肯定率80%以上を維持。[80%] (教員向け学校教育自己診断)「グループ学習を行うなど、学習形態の工夫・改善を行っている。」肯定率70%以上をめざす[68.4%]	イ・ICTを活用した「主体的・対話的な深い学びのある授業」を、校内で年2回、校外に年2回実施。【○】 (生徒向け学校教育自己診断)「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある。」肯定率75.0%【◎】 (教員向け学校教育自己診断)「思考力を重視した問題解決的な学習指導を行っている」肯定率81.0%【○】 (教員向け学校教育自己診断)「グループ学習を行うなど、学習形態の工夫・改善を行っている。」肯定率52.4%【△】
	(2)資格取得に対する意欲を高め、自己の将来を切り拓く能力の育成 ア 各種の資格取得を勧め、学習意欲の喚起と有用な技能取得を図る。	(2) ア・溶接技術、CAD、製図、計算技術等、授業内容と関連する資格取得への講習及び個別指導の充実を図る。 ・3級自動車整備士試験の自動車系列の受験率向上と、合格率向上をめざし、日々の授業と講習の充実を図る。	ア・各種資格取得を奨励し、資格取得生徒の増加を図る。[9名] ・卒業年次生の取得率100%を維持。[100%] ・自動車系列の生徒の3級自動車整備士試験の受験率100%、合格率100%を維持する。[受験率100% 合格率28.5%]	ア・各種資格取得を奨励し、資格取得生徒の増加を図る。[9名] 【○】 ・卒業年次生の取得率100%を維持。[100%]【○】 ・自動車系列の生徒の3級自動車整備士試験の受験率100%、合格率100%を維持する。[受験率100% 合格率25.0%]
	(3)正規就労の拡大 ア 個別の指導・支援による就労指導	(3) ア・求人開拓、個別指導を継続的に実施強化し、正規就職に向けた支援を行う。 ・将来のキャリアを見通した進学指導を行う。	(3) ア・就職希望者の応募前職場見学率100%維持。[90%] ・就職希望者の正規雇用就職率100%維持。[100%] ・就職内定率100% 維持。[100%] ・進学希望者の合格率80%をめざす。[100% 2名] (生徒向け学校教育自己診断)「将来の進路や生き方について考える機会がある。」肯定率85%以上を維持する。[96.2%]	(3) ア・就職希望者の応募前職場見学率100%、一人平均2.4社【○】 ・就職希望者の正規雇用就職率100%【○】 ・就職内定率100%【○】 ・進学希望者は0名。 (生徒向け学校教育自己診断)「将来の進路や生き方について考える機会がある。」肯定率93.8%【○】

府立茨木工科高等学校 定時制の課程

2 周 围 か ら 尊 敬 さ れ る 社 会 人 を 育 て る	(1)規範意識の確立 ア 組織的な指導体制と良好な学習環境の確立	(1) ア・全教職員による生活指導体制を確立し、規範意識や情報リテラシー等を育成し、良好な学習環境を維持する。	(1) ア・(生徒向け学校教育自己診断)「学校では、生活規律や学習規律などの基本的習慣の確立に力を入れている。」 肯定率 80％以上を維持。[84.6%] (授業アンケート)「あなたは、授業中は集中して先生の話聞いて学習に取り組んでいる。」 肯定率 80％以上を維持 [82.5%]	(1) ア・(生徒向け学校教育自己診断)「学校では、生活規律や学習規律などの基本的習慣の確立に力を入れている。」 肯定率 90.6%【◎】 (授業アンケート)「あなたは、授業中は集中して先生の話聞いて学習に取り組んでいる。」 肯定率 91.2%(第1回 90.2%、第2回 92.1%)【◎】
	(2)協調性や社会性の育成 ア 学校生活の定着と魅力高め、集団生活への参加を促進	(2) ア・高校生活支援カードを活用し、家庭及び中学校・外部機関との連携を深め、きめ細かい支援体制により学校生活への定着を図る。 ・学校行事の球技大会、文化祭、校外学習(修学旅行)を充実させ、生徒間の協調性を深める。 ・部活動への積極的な参加を促し、個人または集団での行動範囲を広げ、学校生活の充実を図る。 ・生徒秋季発表大会への参加により、生徒の能力を引き出す	(2) ア・(生徒向け学校教育自己診断)「先生は、日常生活や家庭生活について私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる。」 肯定率 85％以上を維持。[96.3%] 「長欠(年間 30 日以上欠席)生徒数」 在籍数 40％以下をめざす。[44%] 「1年次生の進級率」 70％以上をめざす。[67%] ・(生徒向け学校教育自己診断)にて、球技大会・文化祭・校外学習(修学旅行含む)が「楽しく行われるように工夫されている。」 肯定率平均 80％以上をめざす。[球技大会 73.1%、文化祭 76.9%、校外学習(修学旅行)88.5%の平均で 79.1%] ・外部の大会等に参加する部活動の増加・・・[5部活動9回(バスケットボール部5回、自動車部1回、写真部1回、実定総体にフットサル1名、バトミントン6名)] (生徒向け学校教育自己診断)「部活動に積極的に取り組んでいる。」における肯定率 60％以上を維持。[61.5%] ・生徒秋季発表大会への参加を維持。 [「生活体験発表」・・・1名及び「同全国大会」1名 「展示発表」・・・写真3名1名 美術9名]	(2) ア・(生徒向け学校教育自己診断)「先生は、日常生活や家庭生活について私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる。」肯定率 93.8%【○】 「長欠(年間 30 日以上欠席)生徒数」 在籍数 40％以下をめざす。[34.8%]【◎】 「1年次生の進級率」 70％以上をめざす。[100%]【◎】 ・(生徒向け学校教育自己診断)にて、球技大会・文化祭・校外学習(修学旅行含む)が「楽しく行われるように工夫されている。」 肯定率平均 93.8%(球技大会 87.5%、文化祭 96.9%、校外学習(修学旅行)96.9%)【◎】 ・外部の大会等に参加する部活動・・・4部活動9回(自動車部1回、軽音楽部2回、写真部1回、実定総体フットサルの部【○】 (生徒向け学校教育自己診断)「部活動に積極的に取り組んでいる。」における肯定率 62.5%【○】 ・生徒秋季発表大会への参加 「展示発表」写真部6名「芸能発表の部」軽音楽部4名【△】
3 誇 り を も て る 学 校 づ く り	イ 偏見や差別を許さない人権尊重教育を推進	イ・生徒への人権 HR、人権講演会の実施、「人権だより」発行。教員への人権研修の実施。学校内外における人権尊重意識を持たせる。	イ・人権 HR と人権講演会実施。 (生徒向け学校教育自己診断)「人権について学ぶ機会がある」肯定率 80％以上をめざす。[76.9%]	イ・人権 HR と人権講演会実施。 (生徒向け学校教育自己診断)「人権について学ぶ機会がある」肯定率 87.5%【◎】
	(1)地域連携の促進 ア 地域から見える特色ある学校の取組みを推進。	(1) ア・地域連携活動について、生徒会にて活動内容を検討する。 ・市内の小中学校への出前授業の実施。 ・市内幼稚園等への実習作品の寄贈の継続。	(1) ア・(生徒向け学校教育自己診断)「授業や部活動などで、保護者や地域の人々とかかわる機会がある。」肯定率 80％以上を維持。[85.2%] ・市内小中学校への「ものづくり出前授業」参加者 40 名以上を維持。[90 名] ・実習作品(木製ベンチ)の寄贈4台以上を維持。[4台]	(1) ア・(生徒向け学校教育自己診断)「授業や部活動などで、保護者や地域の人々とかかわる機会がある。」肯定率 78.1%【△】 ・市内小中学校への「ものづくり出前授業」参加者 40 名以上を維持。[100 名]【○】 ・実習作品(木製ベンチ)の寄贈4台以上を維持。[4台]【○】
	(2) 広報活動の展開 ア 学校の特色を広く伝える活動を展開。	(2) ア・学校行事を保護者および地域に公開し、広報活動を展開する。 ・学校の活動が鮮明に伝わるよう創意工夫に努めた学校ホームページの活用。 ・中学校訪問や学校説明会や体験入学等により教育内容の周知を図る。	(2) ア・学校行事(球技大会・文化祭)等への保護者・地域住民の参加者延べ 50 名以上を維持。[90 名] (保護者向け学校教育自己診断)「学校は保護者や地域の人が授業に参加する機会を設けている。」 肯定率 80％を維持。[92.3%] ・ホームページ更新(教員・准校長ブログ発信を含む)による情報発信年間 80 回以上を維持。[83 回] (保護者向け「学校教育自己診断」「ホームページをよく見る」における肯定率 50％以上をめざす。[30.8%] ・「中高連絡会、中学校訪問等での連携中学校」35 校以上を維持 [36 校(中高連絡会6校中学校訪問 30 校)] 「中学校への学校説明会等の参加者」20 名以上を維持。[29 名]	(2) ア・学校行事(球技大会・文化祭)等への保護者・地域住民の参加者延べ 91 名【○】 (保護者向け学校教育自己診断)「学校は保護者や地域の人が授業に参加する機会を設けている。」 肯定率 70%【△】 ・ホームページ更新(教員・准校長ブログ発信を含む)による情報発信年間 80 回以上を維持。[未定]回] (保護者向け「学校教育自己診断」「ホームページをよく見る」における肯定率 30%【△】 ・「中高連絡会、中学校訪問等での連携中学校」35 校以上を維持 [36 校(中高連絡会6校中学校訪問 30 校)]【○】 「中学校への学校説明会等の参加者」20 名以上を維持。[30 名]【○】
	(3)優れた教育環境の提供 ア 生徒のニーズに合致した特色ある教育課程と指導体制づくり	(3) ア・ニーズに合致するように保護者授業参観の機会を増やし、意見も収集。 ・工業系科目の座学と実習が連携し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体化した、特色ある学びの充実。 ・生徒が意欲的に取り組める特色のある教材を適切に充実させる。 ・校内相互授業見学を計画。	(3) ア・年間 10 日間の保護者授業参観を設定し、新たにアンケートにおいて、保護者および生徒のニーズを把握する。[年間8日間] ・工業系の座学と実習が連携をした「個別最適な学びがある授業」と「協働的な学びのある授業」を、各系列1回以上校内公開する。 ・自動車系列は、自動車整備士第1種養成工場として、新整備士試験に対応するように、自動車実習の授業内容のまとめ(実習書)を作成し、特色ある教育への確かな充実を図る。 ・相互授業見学を、今までの期間を設けるのではなく、全教員に他の教員への授業見学を計画するように依頼。 (教員向け学校教育自己診断)「学校内で他の教員の授業を見学する機会がある。」 肯定率 75％以上をめざす。[73.7%]	(3) ア・年間9日間の保護者授業参観を設定。【△】 ・工業系の座学と実習が連携をした「個別最適な学びがある授業」と「協働的な学びのある授業」を、各系列1回校内公開。【○】 ・自動車系列は、令和9年度の3級自動車整備士領域改定に向けて、自動車実習の授業内容のまとめを作成中である。【○】 ・(教員向け学校教育自己診断)「学校内で他の教員の授業を見学する機会がある。」 肯定率 66.7%【△】 ・授業改善に関する研修や、他校の公開授業に参加する教員数9

府立茨木工科高等学校 定時制の課程

	イ 安全安心な学校づくり	・他校公開授業の参加、授業改善に関する研修派遣等の推進。 イ・生徒への避難訓練や交通安全教室、防災講演会、「防災だより」発行。教職員への食物アレルギー研修、AED 講習。 ・校内(職場、学校、工場)の安全点検を行い安全が学校環境を保持。 ・個人情報の適切な管理を徹底する。	・授業改善に関する研修や、他校の公開授業に参加する教員数のべ10 名をめざす。 (生徒向け学校教育自己診断)「この学校には、他の学校にない特色がある。」における肯定率 85%以上を維持。[88.9%] イ・(生徒向け学校教育自己診断)「学校で、事件・地震や火災などがおこった場合、どう行動したらよいか知らされている。」肯定率 80%以上を維持。[80.8%] ・産業医による校内巡視・・・2か月に1回以上。校内安全点検・・・年2回。工場(機械、自動車)・・・定期点検を随時。 ・(生徒向け学校教育自己診断)「成績などの内容についてプライバシーが守られている」肯定率 100%をめざす。[92.4%] (保護者向け学校教育自己診断)「学校では、子どもに関する個人情報が守られている」肯定率 100%をめざす。[92.3%]	名。【○】 (生徒向け学校教育自己診断)「この学校には、他の学校にない特色がある。」における肯定率 93.8% 【○】 イ・(生徒向け学校教育自己診断)「学校で、事件・地震や火災などがおこった場合、どう行動したらよいか知らされている。」肯定率 90.6% 【◎】 ・産業医による校内巡視・・・2か月に1回 【○】 校内安全点検・・・年1回 【△】 工場(機械、自動車・・・定期点検を随時 【○】 ・(生徒向け学校教育自己診断)「成績などの内容についてプライバシーが守られている」肯定率 90.6% 【△】 (保護者向け学校教育自己診断)「学校では、子どもに関する個人情報 が守られている」肯定率 90.0% 【△】
4 働 き 方 改 革 へ の 取 組 み	(1)会議目的を明確化し効率化を図る ア 会議資料のデータ化、ICT 利用による効率的な運営 (2)定時退庁の促進及び有効な休暇取得の促進 ア 働きやすい職場環境づくり イ 各種ハラスメント防止に対する意識の啓発	(1) ア・各会議室を ICT 利用により効率的な会議運営できる場として整備する。 ・各種会議をICT利用により、資料や説明を効率的にし、教職員間の意思疎通や意見交換に有効な時間を確保する。 (2) ア・安全衛生委員会の確実な実施 ・昨年度ストレスチェックの内容を生かし、校務の業務効率化、サポート体制を図り、ストレス軽減・健康増進に向け、働きやすい職場環境を実現する。 イ・各種ハラスメントについて、日常的に注意喚起し、責任ある行動を求めるとともに、職員研修を行う。	(1) ア・(教員向け学校教育自己診断)「職員会議をはじめ各種会議が、教職員間の意思疎通や意見交換の場として有効に機能している。」肯定率 70%以上をめざす。[60%] (2) 時間外在校時間 30 時間以上の職員数なし維持 [なし] ア・安全衛生委員会の開催・・・月1回 ・ストレスチェック集団分析結果において、全国平均を 100 として A 仕事の量的負担・コントロール度 100 以下を維持 [93] B 上司・同僚のサポート 100 以下をめざす [111] C 総合健康リスク 100 以下をめざす [103] イ・(教員向け学校教育自己診断)「教職員間の相互理解がなされ、信頼関係に基づいて教育活動 が行われている」肯定率 75%以上をめざす 。[70%]	(1) ア・(教員向け学校教育自己診断)「職員会議をはじめ各種会議が、教職員間の意思疎通や意見交換の場として有効に機能している。」肯定率 85.7% 【◎】 (2) 時間外在校時間 30 時間以上の職員数 のべ 13 名(うち管理職3、全日制の非常勤講師兼務によるもの5) ア・安全衛生委員会の開催・・・月1回 【○】 ・ストレスチェック集団分析結果において、全国平均を 100 として A 仕事の量的負担・コントロール度 89 【○】 B 上司・同僚のサポート 115 【△】 C 総合健康リスク 102 【○】 イ・(教員向け学校教育自己診断)「教職員間の相互理解がなされ、信頼関係に基づいて教育活動 が行われている」肯定率 71.4% 【○】